



Depaul International Head Office  
291-299 Borough High Street  
London  
SE1 1JG  
Tel. +44 (0)207 939 1220

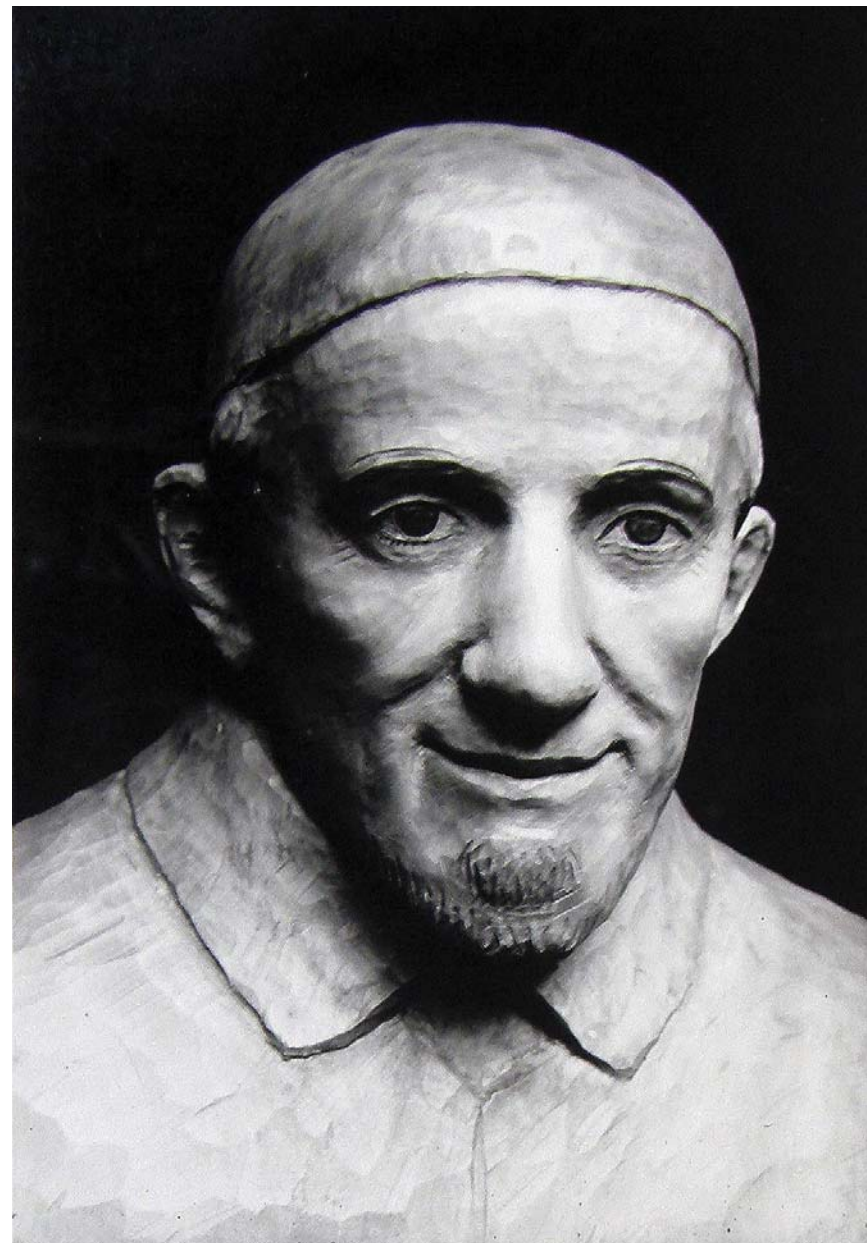


COLLEGE OF LIBERAL ARTS AND  
SOCIAL SCIENCES  
*School of Public Service*

14 E. Jackson Blvd. Suite 1600  
Chicago, Illinois 60604  
hayleadership@depaul.edu  
312.362.5519

Reproduction of this booklet is free provided copyright (see below) is acknowledged and reference or link is made to the [leadership.depaul.edu](http://leadership.depaul.edu) or [depaulinternational.org](http://depaulinternational.org) website. This booklet may not be sold. Please retain this notice on all copies.

© J. Patrick Murphy, C.M. 2015



ムッシュー・ヴァンサン

J.パトリック マーフィー、宣教会司祭

## 筆者

J. パトリック・マーフィー 宣教会司祭、C.M., Ph.D. 現在は6か国を渡ってホームレスを奉仕する国際デュポールの組織の、価値観を浸透させるディレクターとして働く。デュポール大学の名誉教授で、ビンセンシオのリーダーシップ、ハイプロジェクトの創業者兼代表を兼ねる。シカゴ在住。連絡先: [jpmurphy@depaul.edu](mailto:jpmurphy@depaul.edu)

## 出版社

国際デュポールは、聖ビンセンシオの価値観に基づいて世界中のホームレスや疎外された人々のために働く、一団の慈善団体の親会社である。本社をロンドンに置き、2015年現時点で子会社のある国々は、英国、アイルランド、フランス、ウクライナ、スロバキア、そして米国となる。 <http://www.depaulinternational.org>

## ビンセンシオのリーダーシップ：ハイプロジェクト

世界中の人々や組織を、聖ビンセンシオの将来への展望、価値観、リーダーシップに気づかせ、前進させている。ビンセンシオ流の研究、養成、教育、そして合作を提供することで、この企画は、他社への奉仕の中に聖ビンセンシオの組織力の俊才とリーダーシップの技術を継続させることにある。

<http://www.leadership.depaul.edu>

## Credits

**Cover:** Rybolt, J. Photograph of statue in Daughters of Charity hospital, Nippes, Cologne. St. Vincent de Paul Image Archive

**4:** Krüg, Kris; Pop!Tech 2008- Malcolm Gladwell. (2008) <https://www.flickr.com>

**7:** Global Sports Forum; Mia Hamm. (2011) <https://www.flickr.com>

**14:** Simpson, Tom; Walt on a mini train. <https://www.flickr.com>

**Layout:** Krzysztof Jan Komperda

## 推奨図書

- Coste, C.M., Pierre, **Monsieur Vincent, Le grand saint du grand siècle** (Paris: Desclee, 1934). English edition: **The Life and Works of St. Vincent de Paul**, Trans. Joseph Leonard, C.M. (Brooklyn, NY: New City Press, 1987).
- Fuechtmann, Thomas G., “There is Great Charity, But...,” Vincentian Heritage, DePaul University Vincentian Studies Institute, Chicago, 2005.
- Gladwell, Malcolm, **The Tipping Point How Little Things Can Make a Big Difference**, New York: Little, Brown and Company, 2000.
- McKenna, C.M., Thomas, **Praying with Vincent de Paul**, St. Mary’s Press Christian Brothers Publications, Winona, Minnesota, 1994.
- Melito, C.M., Jack. **Saint Vincent de Paul: His Mind and His Manner**, DePaul University Vincentian Studies Institute, Chicago, 2010.
- Murphy, C.M., J. Patrick, “Servant Leadership in the Manner of Saint Vincent de Paul,” Vincentian Heritage, DePaul University Vincentian Studies Institute, Chicago, 1998.
- Murphy, C.M., J. Patrick, “We Want the Best,” Vincentian Heritage, DePaul University Vincentian Studies Institute, Chicago, 2005.
- Murphy, C.M., J. Patrick, “Hospitality in the Manner of St. Vincent de Paul,” Vincentian Heritage, DePaul University Vincentian Studies Institute, Chicago, 2015.
- Paul, Vincent de and Coste, Pierre C.M., “Correspondence, Conferences, Documents, Volume II. Correspondence vol. 2 (January 1640-July 1646).” (1988).
- Pujo, Bernard, **Vincent de Paul the Trailblazer**, Notre Dame: University of Notre Dame Press, 2003.
- Roman, C.M., Fr. Jose Maria, **St. Vincent de Paul A Biography**, London: Melisende, 1999

ビンセンシオがこの地を歩いてから400年以上たった今、数巻にわたる伝記から、欠陥付きのもの、敬虔なものもあれば、数冊の優れた作品に至るまで、1500以上に及ぶ彼の伝記が残されている。この小冊子の目的は、ほんの数ページではあるが、どれだけビンセンシオが目的を果たしたか、また、私たちが彼から何を学んで今世紀の世界に変化をもたらすことができるかを示すことである。

この小冊子はビンセンシオの霊性、祈りの生活、神学、歴史、または虚実を取り混ぜて語ることではない。これらに関するより優れた出版物が多数あり、特によりよく知りたい方には巻末に付記した複数のリストや添付した小作品もお勧めする。

## なぜ今、400年前に生きた男性の事を知る理由があるか？

ここで今日学ぶことが少しでも意味があるものかどうか、考慮すべきいくつかの理由を提示したい。

“ビンセンシオの最大の達成 「彼の仕事の総全集」は、彼が始めた素晴らしい愛のわざの顕著な功績と（400年たった今も）いまだに引き継がれている彼の偉功であろう。” (Melito, 41)

- 今日彼の偉功は、普通生涯をかけてしたといわれる功績をはるかにしのぐものである。
- 彼が生涯をかけて、貧困を見る世界の目を変えた。
- 彼の組織的な貧困への奉仕は、世界史上最初のものである。
- 彼自身も、人生の転換期まで、一般的かつ人間的な男性であり（自己中心的、金銭中心的、野心的）、欠陥だらけで、迷いがあつた。
- 彼はすべてを貧者に捧げ、彼が知る中で最も富める者となった。
- 世界は彼に向かって積み上げられ、彼はそれを変えた。
- 彼は3年半の間、落ち込んでいた。
- 25年もの間、彼は彼自身を模索し続け、神と貧しい人々を知るに至った。

なぜこれほど沢山の世界中の人々が、情熱に火をつけられて、400年たった今も彼の足跡を追っているのだろうか？

• 聖ビンセンシオ・ア・パウロ会 会員	800,000+
• 愛徳姉妹会のシスター	16,000+
• ビンセンシオ会の司祭、修道士	3,231+
• 国際愛徳婦人会 (AIC)	150,000+
• Vincentian Marian Youth (VMY)	100,000+
• 国際デ・ポール会、スタッフとボランティア	2,000+
• ビンセンシアンファミリーの組織	40+
• ビンセンシオに感化された組織	250+

今日私たちは簡単に自問することができる。「ビンセンシオならどうするか？」 もしくは、「イエスならどうするか？」 しかし、私たちは最初にデュ・ゴンディ夫人が発した典型的なビンセンシオ会員としての質問、「何かがなされねばならない。私は何をすべきなのか？」を常に自問することによって、自身の道を見出すことができる。ビンセンシオはこの質問をシャティオンの人々にしたところ、彼らは貧しい人々に食事を与えた。ビンセンシオがガレー船をこぐ囚人の状態を国王に提示したところ、国王は状況改善のために彼を送ったのだった。

何かがなされねばならぬことを知っていて、勇敢にも「自分は何をなすべきか」と自問することは「ビンセンシオなら何をするか？」を知ることである。

## 今日ビンセンシオなら何をするだろうか？

ディズニーワールドの建設が始まる前にウォルト・ディズニーが死に、ディズニーの取締役役会はこの計画を破棄することに決定した。しかし、引退していたウォルトの兄弟のロイ戻ってきて、「ウォルトのためにやろう。」と言ったので、彼らは建設をし、今までで一番成功している家族娯楽企画となった。そしてその後23年間、ディズニーの指導者たちは自問し続けた。「ウォルトならどうするか？」 彼らはこの質問を繰り返し自問した挙句、多くの人が言うように「降霊会の運営」で、最終的に自分達の道を見失ったのである。



## 名前の意味？

*Vincent Depaul*

彼はいつも自分の名前をVincent Depaul と記した。それは、誰も彼が上流階級出身と間違わないためであった。もし彼がDePaulと記していたらあり得たことである。彼は、彼を尊敬する人たちから聖者、学者、聖なる人、愛徳の使徒など、そして死に至ったときは祖国の父など、色々な名前と呼ばれてい。しかし、彼は他者、特に貧しい人々との壁をなくすため、単に Monsieur Vincent “ビンセンシオさんと呼ばれることを好んだ。

## 17世紀幕開けの世界

ビンセンシオは1581年にこの世界に生まれた。彼の生存期間、最後の数か月を除いて、フランスはあれこれの理由で常に戦時状態だった。パリの人口は彼の誕生時、約20万人、それが彼の1660年の死亡時には2倍になった。この間、フランス国民は貴族、聖職者、そして農民という三つの階級にわかれていた。貴族階級に生まれ限り、貴族のために土地を耕す以外に人生を向上する機会はなく、それ以外には聖職者になるしか道はなかった。

## 誕生

ビンセンシオは1581年4月に生まれたが、最初の伝記者たちは1576年と記した。なぜなら、彼らはビンセンシオが既存の法律より若くして神父になったという事実を隠すためにそうしていた。

1600年には、彼はまだ在学中に神父になり、空いている時間を使って寄宿学校を始め、学費の足しにした。神学の学位は1604年に授与された。

卒業後、2年間消息不明となったが、ローマに落ち着いた。学生ローンを払うのを避けるために彼はそうしたのではないかと疑問視する声もある。ローマでは富を見いだせず、パリに移住した。パリで彼は落ち込み、現金流量と将来の収入の安定を追いかけるのに挫折した。 やっと収入が入り始めた1610年頃、彼は母親に宛てて手紙を書き、すぐに母親と家族全員を数年分養えるお金を送ることができ、間もなく引退するであろうことを伝えたのであった。彼は若干29歳であった。

## ビンセンシオの転換期

ビンセンシオは早く昇進し、快適に暮らし、家族を養い、早期に引退するための十分な資産を得ること心血を注いだ。彼はほとんどそれを得ることができた。ただ、36歳になるころ、彼は転換期を迎えることになり、それはほとんどイエスが彼自身の使命を発見するのと同じ年代であった。



マルコム・グラッドウェルは彼の転換期について書くとき、それはまるですべての事象が一緒になり、人生の規模を何か新しいものに傾ける時期のようだと記す。ビンセンシオにとっての転換期は、主に1617年の2つの出来事に由来する：

同年1月のフォルヴィル市 (Folleville) (狂った街という意味)、そこで彼が説いた説教の効果がすごく、波のように押し寄せる群衆の告解を聞くため、イエズス会の司祭達に援助を依頼せねばならぬほどだった。ビンセンシオは貧しい人々と彼らの甚大な必要性をフォルヴィルで見出した。また、自身が多くの人を鼓舞する説教者であることも学んだ。

2番目の出来事は同年8月に起きた。彼は雇用主のデュ・ゴンディ氏の家に別れを告げ、シャティオン・レ・ドンブの教会の主任司祭になった。そこである家のすべての家族が病気で、食べるも

## 結論

多分、一番の教訓となるのは、ビンセンシオが行動の人だった、ということではないか。ひとたび活動の中で決意すると、彼は前向きな奉仕とでも呼べるものを要求した。プジョーはビンセンシオについてこう言っている。「彼は行動の美德を信じていて、この短い標語を愛した：Totum opus nostrum in opeatione consistit (行動が我々の全仕事だ)。」 (Pujo, 251).

貧しい人々に仕える人々の中で最も偉大な名前といえば誰になるだろうか？ マザーテレサ？ アシジの聖フランシスコ？ 他に誰がいるだろうか？ 誰が貧しい人々のために、組織的に奉仕を制度化しただろうか？ イエスでもなく、聖フランシスコでもなく、最も広範な意味でもって、マザーテレサでもない。ただビンセンシオだけである。

イエスはみなを鼓舞した。「私は貧しい人々に良い知らせをもたらすために来たのである。」 (ルカ4:18).

聖フランシスコは説教をし、またそれを生き抜いた。ビンセンシオはそれらすべてを行い、組織を加えた。さらに、彼は貧しい人々に直接関与し、継続的に質を改善し、それを制度に組み入れた。

「ビンセンシオの慈善と情熱の表現は、一般の放棄された貧しい人々に食事と衣類を与える以上のもので、病人を看護し、戦争や災難からの避難者を奉仕した。受け身で、貧しい人々が来るのを待ってはいなかった。積極的に主導権をとり、困っている人々、特に病人の世話のために、時々パリの掘っ立て小屋や洞窟のような家に会員を送ることもあった。」 (Melito, 62).

彼の2番目の有名な説教で、人々は心を動かされ、多くの人が食料と薬品をその貧しい家族に届けるために、まさに行列して彼らの家まで行った。ビンセンシオはそれを一目見て、すぐに慈善心は十分にあるが、組織が全くできていないことを悟った。彼の貧しい人びとを奉仕する最大の才能は、人々の努力を制度化する能力にあった。それは歴史上初めてであった。

**教訓:** 自分の経験に注目すること。偉大な貢献をそこに発見するかもしれないから。

ビンセンシオは政府に、囚人たちの生活をより人間らしいものにするように変化させるよう説得することができた。

**教訓:** 自分の良いことをする力と影響力を過少評価してはならない。

ビンセンシオは必要であれば、規則を変えることを恐れていなかった。また、彼は物事が機能していなければ、それらから遠ざかることにも恐れを抱いていなかった。

**教訓:** 誰でも間違いを犯すものである。それらから学び、前進あるのみである。

聖職者達から貧者を奉仕する助けをもらう前に、ビンセンシオは聖職者たちの改革と教育をしなければならなかった。

**教訓:** 最善の開始場所は、どこにしようとも今いる場所である。一人では何もできない。先生も指導者である。

ビンセンシオは、監督の任意のある人の一人がまずい食事と安いワインを出すという苦情をたくさん聞き、そのひとに手紙を書き、貧しい人々の奉仕をしている者に、おいしい食事と良いワインを出すよう指示した。

**教訓:** 自らの関係ある人々をまず世話せよ。小さな成功を祝福せよ。

のも薬もなく、誰も面倒を見る人もいないことを聞き、説教の中でそのことを話した。その説教は圧倒的な成功をおさめ、ビンセンシオは彼の生涯の仕事を設定することを学んだ。**慈愛はあふれるほどあるのに、組織が貧弱である。**彼はすぐにこの愛のわざを組織化することに試みた。彼は教会で最初の愛のわざを正式に制度化し、1617年のクリスマスの前に実現した。

シャティオンの教会の人々の落胆はあったが、彼はデュ・ゴンディ家に戻り、再び勉学にいそしんだ。デュ・ゴンディ夫人は彼の貧しい人々に対する愛と懸念を見、シャティオンに戻って幸せに貧者の世話をするか、または彼の焦点をフランス全土の貧者に向け、奉仕を組織化するか、提案したのであった。ビンセンシオはこの機会に飛びついた。彼女は彼がそうするだろうことを予知していた。彼女は、2億6千7百万円 (\$2.5 million) 「全くの運」を彼に操業資金としてさし与えた。「私は貧しい人々に良い知らせをもたらすために来たのである。」(ルカ 4:18) というイエス・キリストの個人的な使命を発見したビンセンシオは、それを自分のものとした。

32歳の年に、彼は家族を訪問したが、将来のための資金を供給することができないでいる自分が失敗と落胆の元と感じていた。自分の遺産相続人として甥や姪の名を残し、彼らはビンセンシオの新しい貧者への愛を敬った。パリへ戻ったビンセンシオは残してきたいとおしい家族を愛するあまり3か月の間泣いたという。

1625年に、ビンセンシオは宣教会 (the Congregation of the Mission) を設立する。貧しい人々に奉仕するため、彼はカトリック教会自体と地元教会に従事する必要があった。カトリック教会に従事するには、まず無知と腐敗した聖職者を改革せねばならなかった。彼が聖職者たちに助けを求めると、彼らは知識、貞節、冷静さに欠けていることが明らかになった。ある司教が自分の教区の聖職者をこう述べている。

「...たくさんのそして数えきれないほどの無知で腐敗した神父達があり、言葉でも実例でも、自らの行動を変えることもできない。考えただけでもぞっとするが、自分の教区に7千人の、召命

のない、泥酔した、みだらな神父達が毎日祭壇に上っている。」  
(Paul, 473)

ビンセンシオは本格的に貧しい人々への奉仕を司祭改革から始めるのだった。

1633 年には、ビンセンシオに靈的指導を求めてきた未亡人で非常に才能のあるルイズ・ド・マリヤックと一緒に愛徳姉妹会を設立することになる。同年、聖ラザール修道院を取得し、当時、現存の組織が目撃した、類稀に見る組織を始め、それは拍車をかけて最も大きく成長したのだった。ビンセンシオとルイズはわずか数年にして、パートナーシップを駆使し、社会奉仕事業を急速に成長させた。この二人の聖人は、互いに不完全で不十分なものであったが、相互に最善を尽くし、変革のリーダーシップをもたらし、奉仕の世界を変えたのだった。彼らはお互いなしでは、これを成しえることはできなかつたであろう。

### すべてを一緒に

ビンセンシオは人生の最後の数10年 ( 1635-1660 )、できる限り実地で、それができない時はメモを通して経営管理をし、彼の愛のわざを制度化した。人生において、彼は3万通の手紙を執筆し、そのうち1万1千通が今日現存する。

ビンセンシオは偉大な才能、教育、そして情熱の人だった。偉大な生産者たちについてのマックキンジ社の研究によると、才能のある人というのは欠乏状態にあるようだ。才能は大きな相違をつくり、競争で優位に立つためには極めて重要である。最上の人たちは他の人たちよりずっと優れているのである。例えば、16人の作曲家が今日われわれが聞くクラシック音楽の50%を作曲した。残りの半分は別の235人の作曲家達である。作家の10%が米国議会図書館の50%の本を書いている。偉大な芸人も他の人と同様のミスをするが、彼らはそれ以上に作り出すので、より顕著な成功を収めるのである。ビンセンシオもこれに当てはまるであろう - 彼は長く生きた分、より多くをつくりだし、失敗もしたが、同代人よりたくさん成功も収めたのである。

ビンセンシオは激しい気性の持ち主で、物まねが得意、良い話をするのができ、女性に対して魅力的だった。

**教訓:** 自分の才能、強さ、限界を受け入れる。そしてそれらを活用する。

ビンセンシオは借りた馬を売って現金に換え、2年間行方をくらまし、尊大な物語 ( 彼は二度とそれを話すことはなかった ) が書かれている「悪く評価された手紙」を回収しようとした。

**教訓:** もし過去に意味のないことをしたのであれば、それもよい。いずれにせよ、良いことをすればいいのである。

ビンセンシオは田舎の貧しい人々に心を惹かれた。当時は98%の人々が地方に住んでおり、市街地ではなかった。

**教訓:** 必要があるところに行くがいい。それが訪れるまで待たないで。聖ラザール修道院がお客様にその扉を開けたとき、彼はスタッフに言った。「お客様がタオルを、石鹸を、というまで待ってはいけない。むしろ、効率的に供給すべきである。」 ( 警察が有名な銀行強盗のウィリー・サットンを逮捕した際に、どうして銀行強盗をしたか詰問した。すると彼は、「だってそこにお金があるからだ。」と答えた。 )

ビンセンシオは素晴らしい説教で自分の生活を変え、またフランスの貧しい人々の生活を変えた。フォルヴィルでの説教は彼を驚かせ、彼に一生の使命 ( mission ) を与えたのである。デュ・ゴンディ夫人は後に彼が使命を始めるために250万ドルの資金を提供した。

**教訓:** 人々に留意し、効果的な指導者になるために、書き言葉と話し言葉を習得すること。



たった1年後、ビンセンシオは聖ラザール修道院を受け入れ、引っ越しを済ませた。そこは、精神病患者、ハンセン病患者、貴族の道に迷った息子達、問題のある司祭達、そして、たくさんの深刻な貧しい人びとであふれていた。最初から、彼は600以上のベッド数のホテルを運営し、当初よりすでに賑わっていた。

**教訓:** 時々、良い計画が一つにまとまるには時間がかかることがある。(「神様がなさることである。」)ビンセンシオは上記のBHAGs(長期戦略)を神の助けにより見つけることができた。

ビンセンシオは祈りと黙想、そして行動を彼の人生と仕事において、バランスをとり、混在させた。

**教訓:** 基本を一緒につなぎ合わせれば、バランスの取れた生活をする方が楽である。

ビンセンシオは人生をまず生き、そしてから法則を書くことを信じていた。彼は宣教会の法則を宣教会を発足させて33年後に書いたのである。

**教訓:** 人生を振り返りながら生きつつ、時に小さな変化を途上で加えていくがよい。

ビンセンシオは80年の人生を生き、十分に仕事ができなかったかと心配して亡くなった。彼の時代の平均寿命は35~37歳であった。

**教訓:** あなたは自分に値するというより、ことを良く行うために時間と機会を得るかもしれない。始めるのはいつでも遅くない。人生を振り返りながら、オスカー・シンドラは言った。「もっとできたかもしれない。」同様に、ビンセンシオの死に際に、誰かが彼に人生でもし何か違うことをしていたならそれは何かと尋ねたら、彼はただ、「もっと」と言った。

ビンセンシオは百姓で、弁護士だった。

**教訓:** 自分の素性を知り、自分の後に続く人を高め、教育せよ。



1996 年金メダルをとった米国サッカーチームのキャプテンであるミア・ハム、は言った。

「成功をもたらす一番重要な要因は、伝達、相互理解、尊敬、一緒に働く能力であり、安定した中核をなすグループと一緒に競技する12年位、あるいはそれ以上の間に伸ばした能力である。」

### ビンセンシオからの人生の教訓

ビンセンシオは自己発見に25年を費やし、やっと間違った出発点や自身の欲心から逃れられた。

**教訓:** 自己発見のために、途中で迷っても大丈夫。

ビンセンシオは3年半の間、落ち込んでいた

**教訓:** “地獄を通り抜けているときは、立ち止まるな”

(ウィンストン・チャーチル、第二次世界大戦戦前及び戦後の英国首相)

ビンセンシオは人生を36歳になるまで(1617年まで)、自分自身、神、そして立派に引退ができるよう安定した収入を探し求めた。彼が発見したのものは、貧しい人々への奉仕という使命であった。

**教訓:** 時には、見つけるもののほうが、探しているものより良いことがある。

ビンセンシオは家族を失望させたと感じ、家に帰るのを恐れた。彼らはビンセンシオを深い愛情で迎えた。パリに戻り、家には二度と戻らなかった彼は、三か月間、泣きとおした。

**教訓:** 時には家に帰ることがいいことである。また、時には泣くことも助けになる。

ビンセンシオは最終的に、イエス・キリストの使命と同じ、貧しい人々に良い知らせをもたらすという自分の使命を見つけた。彼は自分の役割の良い例を見出したのである。

**教訓:** 個人の人生目的を持つことはいいことである。もしそれが、無欲で高尚ならなおよい。

歴史家はビンセンシオが生きていた時代の天候を、小氷河期と呼ぶ。穀物の半分は失敗し、飢餓が蔓延し、貧しい人々の数は急速に増加した。

**教訓:** 人生で圧倒的な挑戦を抱え込んでも大丈夫である。いずれにせよ、明らかな利点をもたらすことはできるからである。

フランスはビンセンシオの生涯最後の数か月を除いて、常時戦争状態であった。宗教的反体制派の斬首は歯止めがきかなかった。聖職者は無能か腐敗していたか、または両方だった。

**教訓:** 環境が自分を落胆させないように。いずれにせよ、明らかな利点をもたらすことはできるからである

彼の生涯において（特に1610から1660）、パリ市の人口は20万人から40万人に膨れ上がった。市は十分な水、食料、汚水除去を供給することができなかった。疾患が蔓延した。

**教訓:** 時には、成長は物事を悪化させる。いずれにせよ、機会をつかむことはできる。

ビンセンシオは、ピエール・ド・ベリユール神父、サレジオの聖フランシスコといった世界クラスのアドバイザーを選んだ。。ピエール・ド・ベリユール神父、サレジオの聖フランシスコ自身も他の人々への霊的指導者となり、ジャン・ジャック・オリエ、聖ジャンヌ・デュ・シャンタル、聖ルイズ・ド・マリヤックの中にある最高のものを引き出した。

**教訓:** 霊的指導者は明らかな利点をもたらす。よって良い指導者を得ること。そして自分自身、良い指導者になること。

ビンセンシオは、自分のも仕事のモデルを築き上げ、世に衝撃を与えるほどの変化をもたらすために、ルイズ・ド・マリヤックの中に非の打ちどころのないパートナーを見出した。ルイズはビンセンシオと同じように不完全で問題の多い人だったが、二人とも靈感を受けた人であった。

**教訓:** 不完全な人間というのが我々が持つすべてである。よって、彼らのあるがままを受け入れ、ともに働くのがよい。

ビンセンシオは170 - 172cm だった。

**教訓:** 大きさがすべてではない。小さい人だって大きなことができるからである。

ある修道者がビンセンシオにパリ郊外の巨大な資産、聖ラザール修道院を提供した。74エーカーで周囲を歩くのに一時間半を要した。当初ビンセンシオは受け入れを拒否した。なぜなら、あまりに大きすぎ、高価すぎ、また宣教会を変えかねないためであった。彼は正しかった。この修道者はただ物件を投げ捨てたかったのであった。

**教訓:** 経済学の第一の法則：無料の昼食など存在しない。トロ「ジャンホースと無料の昼食には注意せよ。ジム・コリンズは私たちにBHAGsを奨励する：Big Hairy Audacious Goals（長期戦略、長期ビジョン、に近い）。修道者もビンセンシオも当初はその機会を見通せなかった。